

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月25日

事業所名 ひまわりくらぶ広中新聞

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		1階のスポーツ会館と併用している。	2部屋を状況に応じながら、利用に努めている。
	2	職員の配置数は適切である	○		加配体制をとっている。	外出時などは配置数を増やし、安全面に考慮している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			階段がある為、車いすの利用は困難であるが、部屋の中はバリアフリーになっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		始業ミーティング時に適時行っている。	広く職員が参画していけるように、目標設定や振り返りをミーティング等で行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1度のアンケート調査を行っている。	アンケート調査、日々のご意見ご要望を踏まえ業務改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		WAMNETで様々な情報を公開している。	ホームページに公開しており、紙面での配布も検討している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現時点で、第三者による外部評価はおこなっていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		職員の意見を聴きながら研修計画を立案している。	毎年研修計画を立案し、月に1度研修を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		相談支援事業所モニタリングの意見を参考にしている。	保護者との面談、電話、メールなどの日々のやり取りを参考に、個別支援計画、日々の支援活動に活用している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		現在、標準化されたアセスメントツールは使用していない。今後の検討事項。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		子どもの様子や、職員の意見を聴き、立案している。	よりチームで行っていけるように、ミーティングの時間等を活用していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者の年齢、発達年齢、活動時間に配慮している。	児童、保護者のニーズが高い外出レクを実行できるように立案に努める。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		余暇活動の中から、社会性を培えるようにしている。	平日は、遊びを中心に、社会性を培えるように、休日長期休暇は、余暇活動を広げたり、社会性を培えるような課題をあげている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		相談支援事業所作成の計画書を踏まえている。	子どもの状況を第一に、保護者の要望も踏まえ、作成、実施に努める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			始業時にミーティングを毎日実施し、その日の流れ、前日の様子、連絡事項の伝達を行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	送迎終了がまちまちなので、管理者と送迎終了者と、振り返る。	送迎もあり、支援終了後に打ち合わせを行うのは困難。各人と管理者と振り返った内容を、次の日の始業時ミーティングに改めて確認していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		児童個人の記録、全体の業務日誌をつけている。	記録を用いた支援の検証、改善を行うよう努めていく。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			児童の様子、保護者の情報共有、適時モニタリングを踏まえ、見直しの必要性の判断に努める。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		総則の4項目の基本活動を組み合わせ実施している。	「自立支援と日常生活の充実のための活動」、「創作活動」、「地域交流機会の提供」、「余暇の提供」を日々の状況に合わせ、支援を行うよう努める。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者、管理者が主に出席している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校HP,保護者を通じて、情報を入力している。	現在、学校との間で公式な情報共有はなく、各学校によって対応はまちまちであるが、送迎時にその日の様子をきくように努めている。当方から学校に伝える情報は、保護者を通じて、又は直接報告できるように努める。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		まだ利用児童がおらず、今後の検討事項。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		相談支援事業所からの情報にとどまっている。今後の検討事項。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在までに正式な要望がなく、機会がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		機会がなく、連携の仕方が分からず、今後の検討事項。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	外出時に地域の公園で遊んだり、交流機会がある。	先方の受け入れ態勢が難しく、機会がなく今後の検討事項。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	27	自立支援協議会等へ積極的に参加している	○			管理者、児童発達支援管理責任者が参加できるように努めている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		電話のほかに、メールも活用している。	引き続き保護者のニーズを把握し、気になる事や、できるようになった事の共有に努めていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		希望のある保護者を対象に、都度子どもへの関わり方について、一緒に考えていく中で、当方の意見を伝えていけるよう努めていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に詳細を説明し、制度変更の都度、文章、または口頭で説明をするようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		メールを活用している。	知識を取り入れ、相談に応じて答えていけるように努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年3～4回、保護者や家族の参加型イベントを開催している。	今年度は、コロナウイルス感染症対策の為、中止としたが、来年度は開催に向けて、検討中。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		内部の課題として再発防止の対応をとっている。	迅速に詳細を確認し、管理者、児童発達支援管理責任者が対応を行っていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	行事予定を毎月配布している。	個人情報の課題もあり、会報の発信はしておらず、今後の検討課題。
	35	個人情報に十分注意している	○			法令遵守に努め、年に1度個人情報についての研修を開催。随時ミーティングでも注意喚起に努めていく。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			認識にズレが起きないように、言葉や態度の配慮に努めていく。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民を招待する行事は開いていないが、年3～4回の参加型イベントの中で参加できる機会を検討。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各種マニュアルを整備している、研修で職員にさらに周知できるよう努めていく。保護者の周知は、非常変災時や、感染症流行時に、その都度お知らせできるように努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年2回、主として地震を想定した訓練を実施しているが、スタッフの行動訓練を重点的に実施を検討していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			年に1度、研修機会を設け、虐待防止の周知に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束排除宣言を事業所の理念として掲げている。	対象となる利用児童がなく、身体的拘束の必要性が現段階ではないが、研修等を通じて身体拘束について認識を深めていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
42	食物アレルギーのある子どもについて、 医師の指示書に基づく対応がされている	○			契約時にアレルギーの有無を確認し、保護者 から意思に基づく指示書をいただき、見やす い場所に提示している。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内 で共有している	○		年に1度事例を用 いり、振り返りを している。	鍵付きの書庫に保管し、事業所ミーティング 等の必要時に閲覧できるようにしている。